

学科/専攻 管理栄養/管理栄養士	所感
氏名 増田 尚	遠隔授業という新たな授業方法に挑戦し、その中でも教育の質を保つために学生の要望を直接聞き、授業に取り入れて工夫をした1年であった。

家政学部家政学科の教育目標は、本学の教育目標と教育方針の下、「真心・努力・奉仕・感謝」の四大精神の実践を通して社会的に自立して生きていく上で必要な①スキル・リテラシー・教養等に関する一般的知識・技能と②家政に関する専門的知識・技能と③建学の精神・社会人基礎力・pisa型学力を統合的に身に付け、社会に出てからは、これらの知識・技能をベースに生涯学習社会の中で自己の潜在能力をさらに開発しながら、職場と地域の課題解決に貢献できる人材を育成することである。

イ 家政学専攻の教育目標は、家政学部の教育目標の下、これからの社会の新しいライフスタイルのデザインを提案することによって、人々の日常生活を衣・食・住の面から支援することのできる人材を育成することである。

ロ 管理栄養士専攻の教育目標は、家政学部の教育目標の下、管理栄養士の資格を生かして、チーム医療、健康増進・疾病予防、食育・栄養指導又は健康をテーマにした食品の研究・開発等で活躍することによって、人々の日常生活を健康の面から支援することのできる人材を育成することである。

ハ こどもの生活専攻の教育目標は、家政学部の教育目標の下、保育士・幼稚園教諭・小学校教諭の資格を生かして、子どもたちの学力および社会性・社会力の基礎・基本を育てることによって、人々の日常生活を子育ての面から支援することができる人材を育成することである。

## 1 教育の責任

私は家政学部家政学科管理栄養士専攻の教員として、2005年4月から、専門科目である応用栄養学関連の分野を教えてきた。2019年度はオムニバス科目も含めて合計11科目担当した。下の一覧表の担当科目のうち10科目が管理栄養士必修科目である。応用栄養学分野では、妊娠や発育、加齢など人体の構造や機能の変化に伴う栄養状態の評価・判定（栄養アセスメント）の基本的な考え方を修得させる。さらに、健康増進、疾病予防に寄与する栄養素の機能等を理解し、健康への影響に関するリスク管理の基本的な考え方や方法について理解させる。授業以外の校務として、家政学部の教務委員長、FD委員、運営委員、入試委員、学びの泉開発委員の職務を務めている。

科目名	学科/専攻	開講時期	受講者数（人）	担当回数（週）	備考
管理栄養士への道	管理栄養学科	1年前期（2020）	67	5	初年次教育 管理栄養士必修科目 卒業必修科目
応用栄養学Ⅱ	管理栄養士専攻	2年前期（2020）	49	13	管理栄養士必修科目 卒業必修科目
応用栄養学実習	管理栄養士専攻	2年前期（2020）	45	13	管理栄養士必修科目 卒業必修科目
基礎栄養学実験	管理栄養士専攻	2年後期（2020）	48	15	管理栄養士必修科目 卒業必修科目
福祉栄養活動論	管理栄養士専攻	3年後期（2019）	14	5	管理栄養士必修科目 卒業必修科目
福祉栄養実習	管理栄養士専攻	4年前期（2019）	22	8	管理栄養士必修科目 卒業必修科目
卒業研究	管理栄養士専攻	3年後期～4年前期（2019）	6	30	管理栄養士必修科目 卒業必修科目
管理栄養士特論Ⅰ・Ⅱ	管理栄養士専攻	3年後期	61	2	管理栄養士必修科目
管理栄養士特論Ⅲ～Ⅴ	管理栄養士専攻	4年前期	74	2	管理栄養士必修科目
管理栄養士特論Ⅵ～Ⅸ	管理栄養士専攻	4年後期	74	3	管理栄養士必修科目

## 2 教育の理念と目的

教育の理念は、教員が学生に知識を一方向的に伝達するのではなく、物事の考え方を教え、課題解決のために知識が必要なことを学生に自覚させ、学生の自主的な学修を促すことである。学びの主体は学生であり、教員の仕事は学生が学びやすい環境を作り、ファシリテーターとして役割を果たすことであるとする。また、教育の目的は、管理栄養士に必要とされる専門分野の知識を獲得するだけでなく、栄養学の知識と課題対応能力、対象者の理解と食事の管理を中心とした栄養管理の実践、栄養・食の選択と決定を支援するコミュニケーション能力及び栄養・食と安全の管理の向上に役立てたい。そして、社会状況の変化、多様化・高度化する社会や国民のニーズに対応できる管理栄養士を育成したい。（添付資料：①管理栄養士養成施設設置基準、②管理栄養士モデルコアカリキュラム、③管理栄養士国家試験出題ガイドライン）

## 3 教育方法

一方向的な授業構成ではなく、双方向の授業構成になるように努力をしている。学生には、授業前に教科書を読むことを促し、授業シート（PCRシート）の予習問題を実施し（シラバス内の予習欄に明記）、必要最低限の知識は獲得させて授業に参加させている。授業内では、事前学習では解釈が難しい部分の考え方の教示や他科目との関連する内容を整理した後、それらの内容に関する問題（授業シート内に明記、予習課題内容を理解・前述内容を活用する自作問題）をグループワークやペアワークを行い回答させている。この流れを授業中に5回行う。授業後は、復習課題（他科目との関連で回答する内容、答えは1個ではなくより良いものを抽出する形式のもの。授業シート内に明記）を実施させている。さらに、予習・本時・復習の一連の内容について、次回授業の時に確認試験を実施している。

応用栄養学分野の授業内容は、「管理栄養士モデルコアカリキュラム」「管理栄養士国家試験出題ガイドライン」に即した内容である。（添付資料：④シラバス。⑤授業シート）

2020年度は、新型コロナウイルス感染症拡大により、応用栄養学Ⅱについては非対面型（遠隔）授業を実施した。授業方法としては、まずmeetで出席を厳格に確認した後、予習テストの実施方法を説明し、予習テストが終了した後の授業の流れを説明した。主に、授業動画（MP or youtube）3～4本（5～10分/本）を視聴しながらPCRシート（スプレッドシート）に問題に解答していく形態をとった。学生が授業動画の視聴またはPCRシートを実施している間も、meetで待機していることを学生に伝え何か質問や問題が生じた場合はすぐに対応できる状態を保持していた。また、授業動画の視聴やPCRシートへの解答が終了する頃に、本時の授業に関する確認試験（google forms）を実施し、90分間学生が学修する環境を整えた。

実験・実習については、対面型授業を実施した。

## 4 授業改善の活動

授業15週目に授業評価アンケートを実施し授業改善に役立てている。具体的には、授業アンケート結果から、教員側の課題を抽出し、具体的な改善策を授業改善計画書（リフレクションペーパー）に明記している。（⑥リフレクションペーパー）

## 5 学生の授業評価

今年度は新カリキュラムの開講年次配当の変更のため、応用栄養学Ⅰは開講しなかったため、応用栄養学Ⅱの授業アンケート結果（経年比較）を下記表に示す。質問1～7は授業運営（教員評価）について、質問8～17は学生の学修行動・意欲についての評価（5段階評価）である。授業運営または学生の学修行動・意欲についての評価は、昨年度と比較して高い結果になった。2020年度の授業形態は、非対面型授業形態であったため、授業準備が対面型授業の2.5倍費やしたためだと思う。また、学生のメールやメッセージなどの質問については、1時間以内に返信するようにしていたことも良い評価を得られた要因である。しかし、非対面型授業の実施については、学生の学修確認が対面ほど上手くできず、授業終盤でmeetを使用して、質問・回答時間を設ければ良かったと反省している。PCRシートについては、学生の評価はまずまずであったが、対面授業と比較してフィードバックに時間がかかった。次回から、対面授業と同じように翌週には内容をチェックしフィードバックしたい。初回授業でシラバスについて説明をしているが、毎授業で授業内容と到達目標を明確にしても良かったのではないかと反省している。また、次回から、本科目とDPとの位置づけを明確に学生に伝える。予習・復習内容のさらなる充実を実施したい。今後は、予習・復習内容についての個人へのフィード

バックはもちろんのこと、全体へのフィードバック（総括）もしていきたい。全体平均値よりは、予習・復習時間は長いですが、シラバスに記載している時間までは達していない。予習・復習内容の精査をし、学生にとって知識が定着しやすい予習・復習内容に改善する。

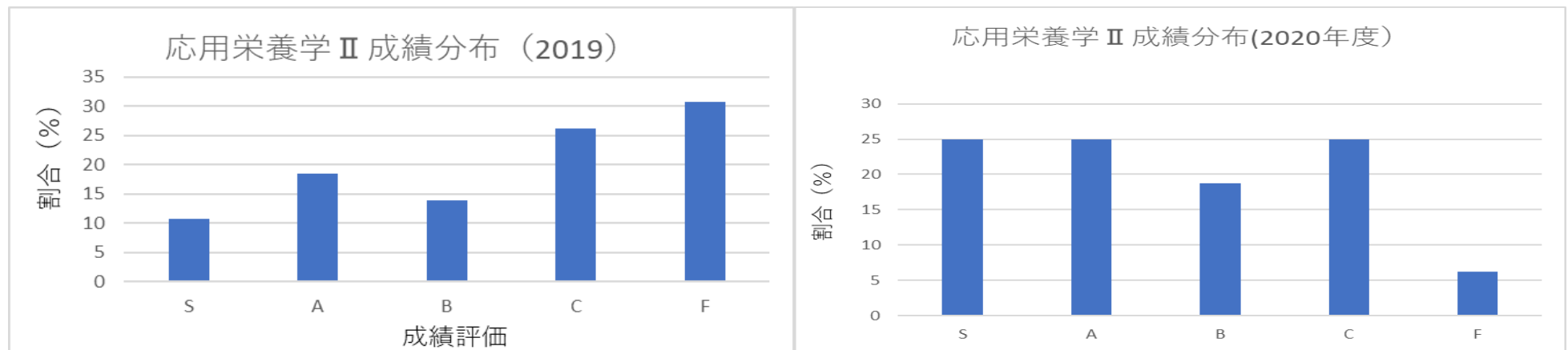
表 応用栄養学Ⅱ 授業評価アンケート結果

質問	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
2020年度	4.31	4.17	4.17	4.14	4.14	4.25	4.17	4.39	4.31	4.08	4.17	4.22	4.28	34.44	45.94	3.89	4.17
2019年度	4.22	4.07	4.08	4.05	4.03	4.13	4.02	3.96	3.92	3.73	3.82	3.86	3.97	31.99	42.94	3.78	4.02

## 6 学生の学修成果

応用栄養学Ⅱ（2年生前期）は、Sが25%（12人）、Aが25%（12人）、Bが19%（9人）、Cが25%（12人）、Fが6%（3人）であった。2019年度の結果は、Sが11%（7人）、Aが18%（12人）、Bが14%（9人）、Cが26%（17人）、Fが31%（20人）であった。

2020年度は、コロナ禍のため郵送による試験を実施したため、例年と比較して、学生の50%が秀（S）と優（A）であった。来年度は、2020年度に定められた家政学部の成績評価の平準化を基本として成績評価を行うように努める。



## 7 授業科目に関連した教材開発

- ①スタンダード人間栄養学 応用栄養学（第2版）、五明紀春・渡邊早苗・山田哲雄・吉野陽子編、朝倉書店、2017年4月：第9章1及び2節執筆
- ②応用栄養学 演習・実習 ライフステージ別栄養マネジメントの実際(第5版)、竹中優・土江節子編、医歯薬出版、2020年3月（予定）：第4章執筆
- ③管理栄養士国家試験全国統一模試、応用栄養学領域の問題10問及び解説を作成、応用力問題3問及び解説を作成、医歯薬出版、2010年～（10年連続）
- ④予習・本時・復習一体型シート（15週分）
- ⑤小テスト（13週分 google forms）
- ⑥遠隔授業用の動画(MP、youtube)

## 8 指導力向上のための取り組み

今年度は、学内のFD研修会、学外の教務関連の研修会、前期・後期の公開授業に参加し、良いと思った取り組みについては少しずつ自身の授業に取り入れている。

## 9 今後の目標

授業評価アンケートで、教員に対しての一定の評価は得ているが、学生の自己評価が低くなっている。これについては、学生との双方向の授業が出来ていない結果とも考えられる。そのため、管理栄養士になるための知識を定着させる取り組みに加え、学生がその知識を活用できるペアワークやグループワークの時間を増やしていきたいと考える。また、学生の学修行動や意欲がわき、自己評価が高くなるような授業取り組みにしていく。

## 10 添付資料

- ①管理栄養士モデルコアカリキュラム
- ②管理栄養士国家試験出題ガイドライン
- ③管理栄養士養成施設設置基準
- ④シラバス（応用栄養学Ⅰ・応用栄養学Ⅱ・応用栄養学実習）
- ⑤授業シート（PCRシート）
- ⑥応用栄養学Ⅱのリフレクションペーパー（授業評価アンケート結果記載入り）